

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

2023/8/31

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは8月31日(木) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

		8月30日現在 (矢印は7月末比)	9月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 146.24	↘ 135.00 ~ 155.00
	国内金利は緩やかに上昇、9月FOMCで利上げ見送りならドル円上昇一服		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.092	↘ 1.06 ~ 1.11
	ユーロ・円 (円)	↗ 159.74	↘ 144.00 ~ 170.00
	9月ECBで利上げ見送りとなればユーロの上値は重い。対JPYでは円金利上昇に留意		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.272	⇒ 1.24 ~ 1.30
	ポンド・円 (円)	↗ 186.05	⇒ 168.00 ~ 195.00
	インフレに鈍化の兆しが見える中、利上げペースは緩やかになろう		
AUD	豪ドル・円 (円)	↘ 94.70	↗ 90.00 ~ 98.00
	NZD	NZドル・円 (円)	↘ 87.06
行き過ぎた懸念の後退で豪ドル、NZドルが反発しやすい			
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 32,333	↗ 31,000 ~ 34,000
	日本の景況感改善が続き、底堅い推移が見込まれる		
	NYダウ (ドル)	↘ 34,890	↗ 33,000 ~ 36,500
米景気のソフトランディング期待から底堅い推移を予想			
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.650	↗ 0.50 ~ 0.80
	円安傾向が続けば更なる政策修正の思惑も高まる		
	米国 (%)	↗ 4.114	↘ 3.50 ~ 4.50
ジャクソンホール会合は今後についてノーヒント			

## ◆ 今月の注目ポイント

## 米欧の利上げ

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	<b>【FOMC/ECB】</b> 米欧ともに利上げサイクルの終盤に入る中、両中銀ともこれまでの利上げの累積的な効果を見極める時間帯に入りつつある。欧米ともに経済指標には一部弱さも見られ始めており、今月のFOMC及びECB理事会が注目される。FOMCでは参加者の先行きの政策金利見通しを示す「ドットチャート」が公表される。先日のジャクソンホール経済シンポジウムでパウエル議長は中立金利の正確な水準は不明としたが、今後の政策運営を見通す上で長期政策金利見通し（ロングラン）に変更があるか確認したい。また、日銀については今月の政策変更は見込まれていないものの、円安が進行していることから何らかの発言等があるか注目。
景気	○	<b>【米国経済の軟着陸期待】</b> 8月下旬に発表された米国の雇用指標は軒並み市場予想を下回ったほか、4-6月期のGDPも下方修正されるなどしており、徐々に金融引き締め効果が顕在化している可能性。緩やかな景気の減速基調が継続するか、各種指標で見極めたい。

## ◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 19.60 ~ 20.40	ルピー・円	↘ 1.70 ~ 1.78
バーツ・円	↘ 4.05 ~ 4.30	ウォン・円	↘ 10.70 ~ 11.30
ルピア・円	⇒ 0.93 ~ 0.97		

## ◆ 今月の重要日程

1日(金) 米	8月雇用統計	15日(金) 中	8月生産・小売・投資
1日(金) 米	8月ISM製造業	20日(水) 米	FOMC(結果発表)
6日(水) 米	8月ISM非製造業	21日(木) 英	BOE金融政策委員会
8日(金) 日	7月毎月勤労統計	22日(金) 日	8月CPI
13日(水) 米	8月CPI	26日(火) 米	9月消費者信頼感指数
14日(木) 米	8月PPI	30日(土) 中	9月PMI

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

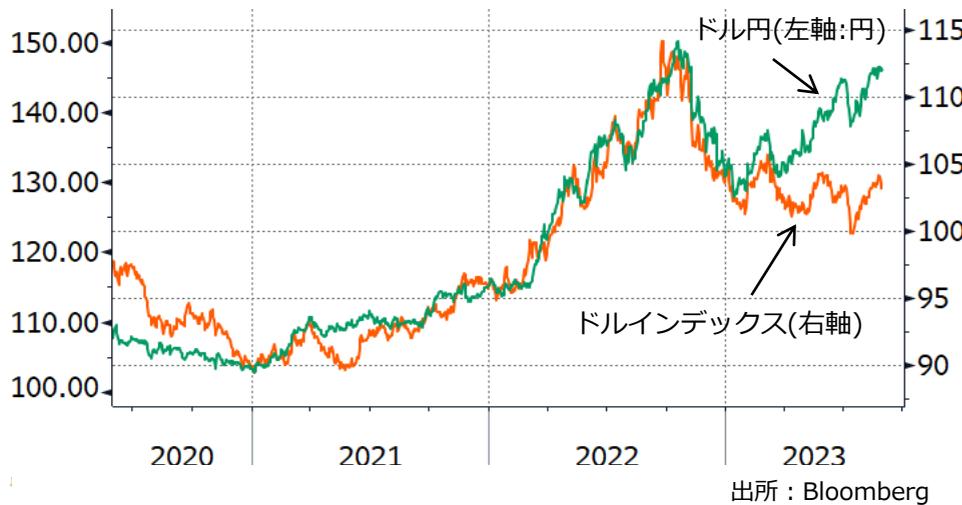
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

### ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

135.00 - 155.00円

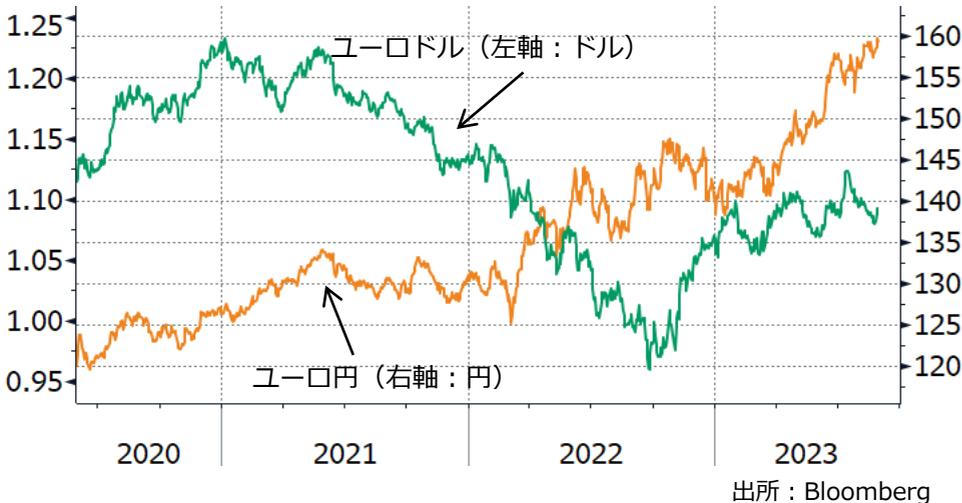
#### 国内金利は緩やかに上昇、9月FOMCで利上げ見送りならドル円上昇一服

8月のドル円相場は概ね右肩上がりの上昇となり、年初来高値 (JPYの安値) を更新する147円台をつける場面もあった。米国の経済指標の上振れが続き、米経済のノーランディング (景気後退を回避) 期待が高まるなか、米金利が4%台を越えて大きく上昇したことが背景。米国の中立金利 (景気を冷やしも過熱させもしない金利) がFRBが想定する2.5%から上昇しているのではとの議論が過熱したことも、金利上昇を加速させた。

国内でも日銀の7月の政策修正以降、長期金利が緩やかに上昇しているが、米金利と比較して上昇ペースは緩やか (金利差は拡大) であることや、日銀は基本的なスタンスとして金融緩和を継続していることから、円高への反転へは至っていない。

一方、注目されたジャクソンホール会合でのパウエル議長の講演では中立金利に関する議論には深入りがなく、市場としては肩透かしとなった形。米金利の上昇は徐々に一服していくと見る。また、国内ではサービス物価を中心に物価上昇は広がってきており、国内長期金利は緩やかに上昇を続けると見る。150円前後の水準では為替介入も意識されやすい。9月のFOMCでは利上げの見送りが予想され、ドル円の上昇も徐々に一服するであろう。

### ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.06 - 1.11ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

144.00 - 170.00円

#### 9月ECBで利上げ見送りとなればユーロの上値は重い。対JPYでは円金利上昇に留意

8月のEUR相場は米国で米国債の格下げや需給不安、中立金利上昇の思惑等で米金利が上昇しドル高が進んだことや、中国の景気不安が台頭したことなどから下落。月末には中立金利の議論で警戒されていたジャクソンホール会議が無風通過となったことや、リスクセンチメントの改善を受け小幅に反発となった。

8月に発表されたユーロ圏の景況感指数では、好調だったサービス業も好不況の分水嶺となる50を割り込んだ。また、7月のマネーサプライの前年比伸び率は2014年来の低水準となった。景気の減速感が高まる中、ECBのタカ派メンバーの発言も中立化してきており、今月14日のECB理事会では政策金利の据え置きが見込まれ、EURの上値を抑えよう。対JPYでは下落を予想。欧州では景気減速とECBのスタンス変化の思惑から金利が上昇しづらい一方、日銀の先行きの政策変更への思惑から円金利は上昇しやすく、日欧の金利差縮小によりEUR安JPY高を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

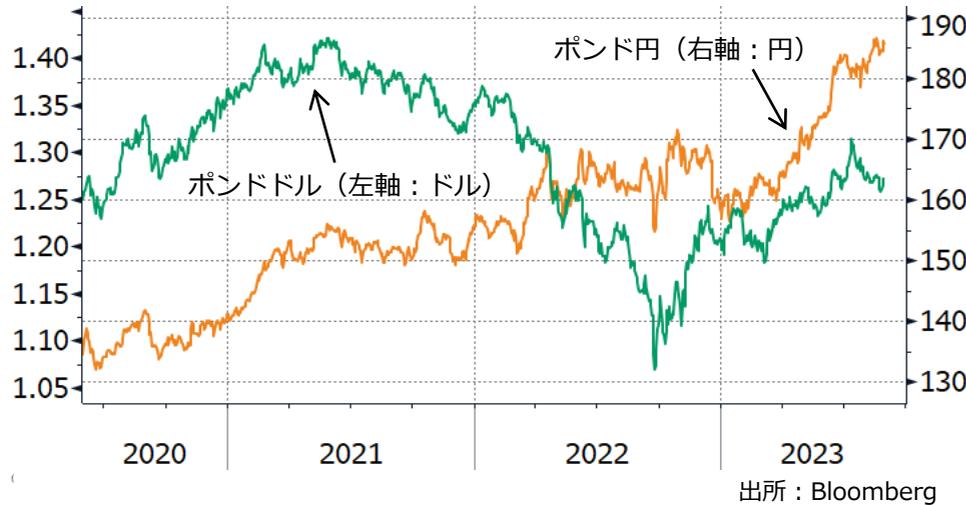
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

### ポンド



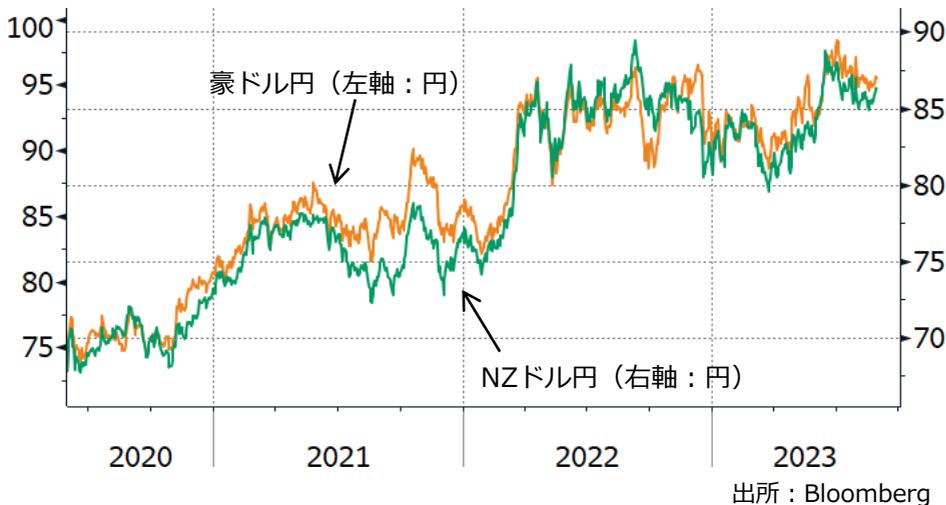
ポンドドル	ポンドドルは横ばい	1.24 – 1.30ドル
ポンド円	ポンド円は横ばい	168.00 – 195.00円

#### 利上げ継続も、景気減速懸念から上値は重い

8月のGBP相場は対USDではドル高の進行を受け月末にかけて下落も、リスクセンチメントの改善を受け小幅に反発。対JPYでは上昇となった。

8月のGBPはもみ合いを予想する。FRBやECBの利上げサイクルの終盤入りが見える中、賃金やインフレ指標が高止まりする英国では引き続き利上げが見込まれており、GBPは上昇しやすい。一方で、引き続きインフレや雇用の指標に鈍化の兆しが見られており、利上げペースはこれまでよりも緩やかなペースとなることが想定されることや、利上げが続くことへの景気減速懸念から、上値も重いと見られる。対JPYでは、ポンド円はもみ合いを予想する。利上げが継続されているが、英国の景況感の悪化が見られる中で、英金利の上昇も緩やかとなることを見込まれる。一方、日銀の先行きの政策修正期待から円金利も上昇しやすく、ポンド円はもみ合いを予想する。但し、引き続き金融政策の方向性は違っており、底堅い推移が見込まれよう。

### 豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は上昇	90.00 – 98.00円
NZドル円	NZドル円は上昇	82.00 – 88.00円

#### 行き過ぎた懸念の後退で豪ドル、NZドルが反発しやすい

8月のオセアニア通貨は対円で下落となった。月初から豪中銀の利上げ見送りや米国の格下げによるセンチメント悪化で豪ドル円、NZドル円は下落。その後、リスクアセスメントが一巡すると、下げ幅を縮小する局面があったが、中国の不動産セクター低迷による景気懸念、豪州雇用統計の大幅な下振れを受け、再び上値が重くなった。月末にかけては株の反発や日銀の緩和継続が意識され、円売りが活発になると、豪ドルとNZドルは対円で買い戻された。

中国景気懸念が豪ドル、NZドルの重しとして意識されているが、行き過ぎている可能性がある。実際、銅が下げ止まっており、鉄鉱石が底堅く推移しており、在庫循環の観点からグローバル製造業の底入れの可能性があり、景気敏感な豪ドルとNZドルの支えとなるだろう。豪中銀が9月も政策金利を据え置きにする可能性は高い。日銀植田総裁は基調的な物価の上昇が不十分という理由で金融緩和継続姿勢を示した。総じて高金利通貨である豪ドル、NZドルは対円で底堅く推移する可能性が高いとみる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

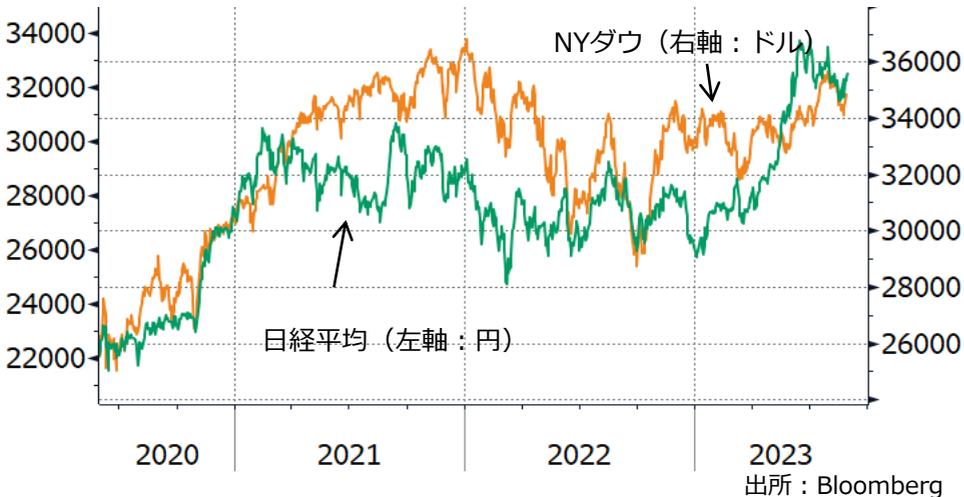
◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

## 株式見通し



日経平均



日経平均は上昇

31,000 - 34,000円

## 日本の景況感改善が続き、底堅い推移が見込まれる

9月の日経平均は底堅い展開を予想する。警戒されていたジャクソンホール会議を無事に通過し、米国の経済軟着陸期待が高まる中で、底堅い推移となろう。また欧米の景況感に鈍化が見られる中、日本の景況感改善傾向が続いていることも株価の下支えとなろう。一方、中国経済の回復の遅れが引き続き懸念されることや、円安が進行する中で日銀の政策修正への思惑がにわかに浮上した場合、株価の上値を抑える可能性もあり、留意したい。

NYダウ



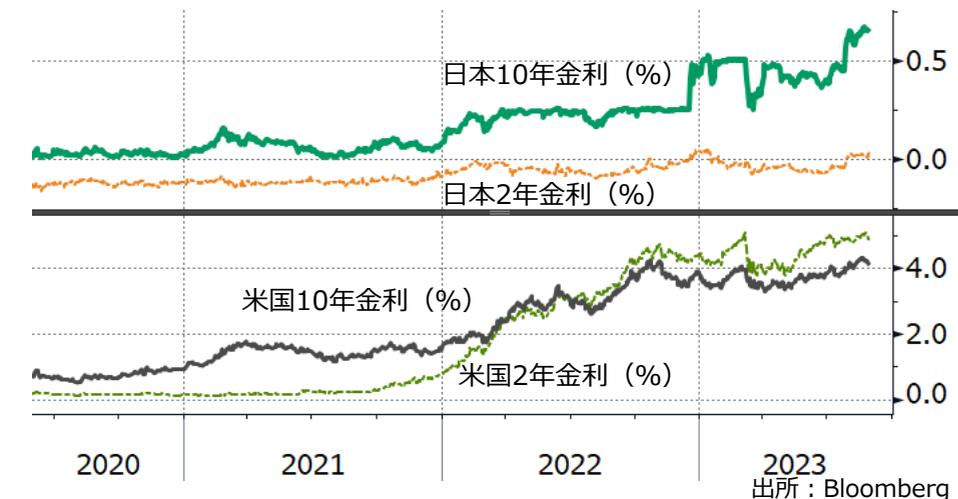
ダウは上昇

33,000 - 36,500ドル

## 米景気のソフトランディング期待から底堅い推移を予想

8月のダウ平均は米金利が大きく上昇したことから軟調な推移となったが、警戒されていたジャクソンホール会議が終了し、米金利上昇が一服したことから月末にかけて反発した。9月のダウ平均は上昇を予想。米経済指標は直近の雇用指標が市場を下回り、FRBの利上げ終了期待が高まる中で、株価は底堅く推移しよう。一方、インフレの高止まりから先行きの利下げ期待が後ずれした場合や、景気に大幅な減速感が見られた場合には株価の上値を抑えよう。

## 長期金利見通し



日本国債10年



金利は上昇

0.50 - 0.80%

## 円安傾向が続けば更なる政策修正の思惑も高まる

8月の国内長期金利は概ね0.6~0.7%の範囲で推移した。7月末の日銀のYCC柔軟化以降、変動幅の目途とされた0.5%を上回る水準での推移が続いている。金利上昇が加速する場面では日銀が臨時的買入オペを実施する等して金利上昇ペースを抑制しているものの、海外金利や国内インフレ率の高止まりにより、国内長期金利は緩やかに上昇していきだろう。円安が更に加速する場合は次の日銀の政策変更が早まる可能性もあり、注意が必要となる。

米国債10年



金利は低下

3.50 - 4.50%

## ジャクソンホール会合は今後についてノーヒント

8月の米長期金利は一時16年ぶりとなる4.3%台をつける等、月初から大きく上昇した。米国の経済指標の上振れが続き、景気後退懸念が和らぐ一方、中立金利を巡る議論が活発化したことも長期金利の押し上げに寄与した。一方、注目されたジャクソンホール会合でのパウエル議長の講演は今後の政策についてほぼノーヒントであり、中立金利についての議論も深入りしなかった。8月に過度に高まった景気楽観・中立金利上昇議論はややクールダウンされるだろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

## (2023年9月号)

### ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		8/30		8月の相場推移		9月の予想	解説
中国	人民元/円	20.03	➡	19.69~20.15	➡	19.60~20.40	8月の人民元は冴えない経済指標や中国人民銀行のサプライズ利下げを受け、対ドルで下落した。足元市場の中国に対する懸念が一時的に行き過ぎた面がある。不動産市場が懸念元であるものの、中央や地方レベルで行われた支援策で更なる悪化は考えづらい。消費者心理も実際回復したとの調査もある。9月の人民元は対ドルで上昇しやすいだろう。
	ドル/人民元	7.303	➡	7.15~7.35	➡	7.15~7.35	
タイ	バーツ/円	4.175	➡	4.08~4.18	➡	4.05~4.30	タイ中銀が8月に利上げを実施したが、堅調な米経済指標によるドル買いが進む中、ドルバーツは上昇した。首相選出が好感され、タイ資産への資金流入を促す可能性があり、バーツにとってポジティブ材料。一方、GDPの下振れが示したように景気減速懸念が高まっている。月末のタイ中銀会合では政策金利が据え置きになる可能性が高いとみる。9月のドルバーツはもみ合う展開となるだろう。
	ドル/バーツ	35.10	➡	34.24~35.60	➡	34.0~36.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.960	➡	0.933~0.959	➡	0.93~0.97	製造業PMIの改善やGDPの上振れが見られたものの、米国との金利差拡大を受け、インドネシア債を売却する動きが強まり、ドルインドネシアを押し上げた。インドネシア中銀が資金流出を食い止め、ルピアを安定させるために新証券を発行しており、一定の資金流入が見込まれるだろう。コモディティ価格の底堅い動きもルピアのサポート材料となる。9月のルピアは対ドルで上昇しやすいとみる。
	ドル/ルピア	15,240	➡	15,094~15,358	➡	14,900~15,200	
インド	ルピー/円	1.766	➡	1.71~1.78	➡	1.70~1.78	景況感の改善や貿易赤字縮小が見られたものの、米国との金利差拡大を受け、8月にドルルピーは上昇した。インド中銀が政策金利を据え置きにしたが、エルニーニョ現象による食料価格の上昇リスクがある中、インド中銀もインフレ抑制姿勢を継続するだろう。ただし、貿易赤字の規模が依然として高いため、ドルルピーは高止まりする時間帯が続きやすいとみる。
	ドル/ルピー	82.73	➡	82.26~83.16	➡	81.50~83.00	
韓国	100ウォン/円	11.052	➡	10.79~11.18	➡	10.70~11.30	米国との金利差拡大や中国景気懸念を受け、8月のウォンは対ドルで下落した。韓国中銀が8月の会合で23年のコアCPI予想を上方修正しており、年内の追加利上げの可能性にも言及。しかし、貿易収支の再度の悪化や家計の債務問題などがウォンの重しとなる。ドルウォンは高水準で滞在する時間帯が長いとみる。
	ドル/ウォン	1,324	➡	1,275~1,343	➡	1,270~1,370	

◎注意事項

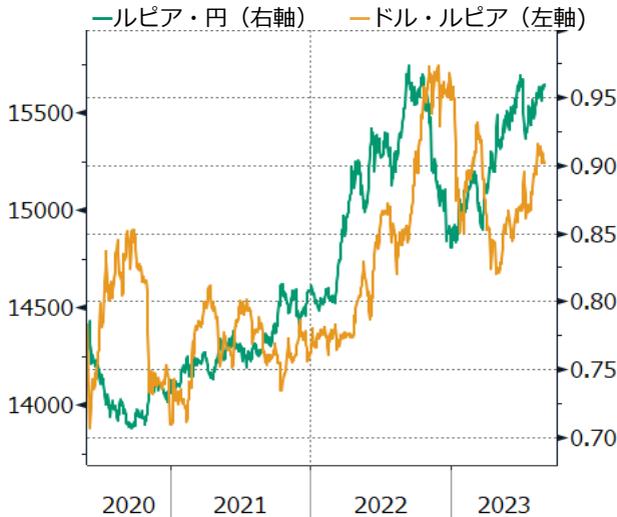
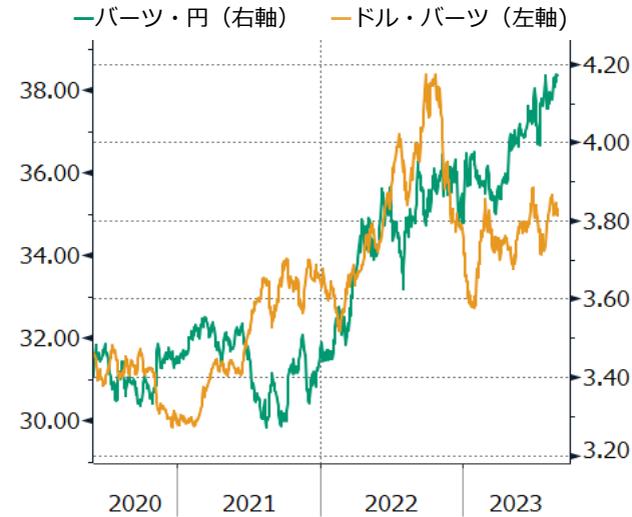
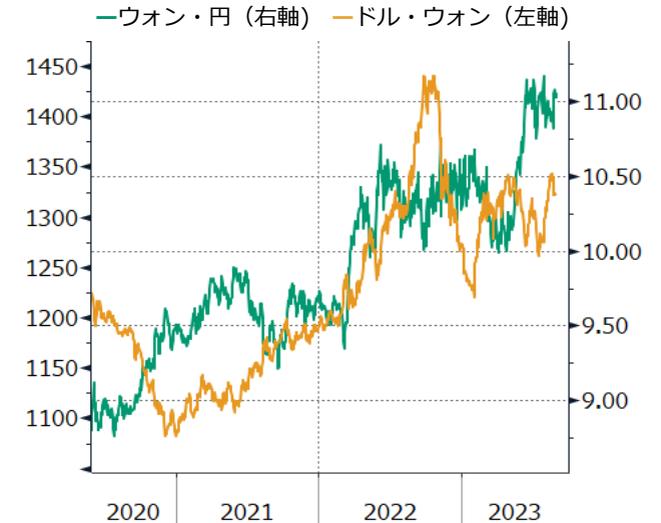
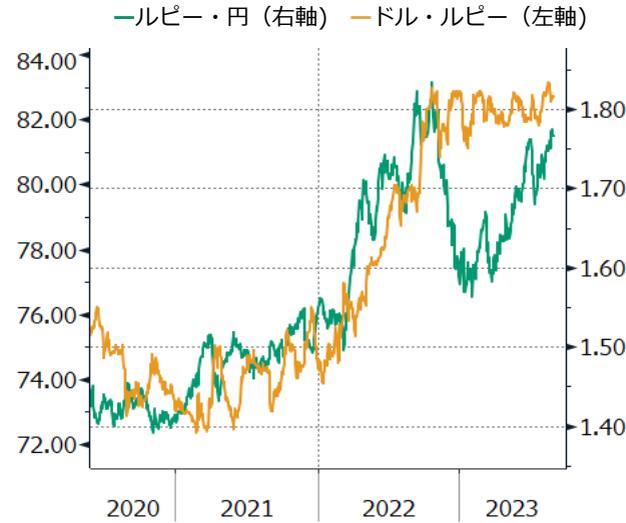
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年9月号)

## ◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

## ◆ 年間為替見通し

		2023年		2024年		ポイント
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	
ドル円	レンジ	<b>135～155</b>	<b>130～150</b>	<b>120～140</b>	<b>110～135</b>	FRBの利上げ停止と日銀の政策修正により、徐々に上値が重くなる。
	期末値	<b>140</b>	<b>135</b>	<b>125</b>	<b>125</b>	
ユーロドル	レンジ	<b>0.90～1.15</b>	<b>0.90～1.15</b>	<b>0.90～1.15</b>	<b>0.90～1.15</b>	ユーロ圏の経済指標は下振れが顕著となっており、景気低迷が長期化する可能性がある。ECBは徐々にスタンスを中立化させており、利上げの終了が見え始めればEURは上値が重くなる。
	期末値	<b>1.10</b>	<b>1.08</b>	<b>1.05</b>	<b>1.08</b>	
ユーロ円	レンジ	<b>130～165</b>	<b>130～155</b>	<b>125～150</b>	<b>120～145</b>	労働需給のひっ迫や、賃上げ等からインフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。一方、FRBやECBが利上げ終盤サイクルに入中、インフレ高止まりから金融政策格差が意識されやすく、GBPは下支えされやすい。
	期末値	<b>154</b>	<b>145</b>	<b>131</b>	<b>135</b>	
ポンドドル	レンジ	<b>1.10～1.40</b>	<b>1.00～1.40</b>	<b>1.00～1.30</b>	<b>1.00～1.30</b>	中国当局の景気支援方針で中国経済が徐々に回復していく。ただし、米中金利差は大きな縮小が見込みにくく、ドル人民元はしばらくもみ合う。来年からグローバル製造業回復で貿易黒字が拡大し、人民元を支える。
	期末値	<b>1.20</b>	<b>1.15</b>	<b>1.20</b>	<b>1.15</b>	
ポンド円	レンジ	<b>150～195</b>	<b>140～185</b>	<b>130～170</b>	<b>120～160</b>	足元底堅く推移するも年末に向けて米国景気懸念で上値が重くなりやすい。
	期末値	<b>168</b>	<b>155</b>	<b>150</b>	<b>143</b>	
ドル人民元	レンジ	<b>7.00～7.40</b>	<b>7.00～7.40</b>	<b>6.80～7.20</b>	<b>6.70～7.10</b>	観光業の回復から当面の間底堅く推移。年末に日銀政策修正織り込みや欧米景気悪化で対円で下落を予想。
	期末値	<b>7.20</b>	<b>7.20</b>	<b>6.90</b>	<b>6.80</b>	
人民元円	レンジ	<b>18.24～22.14</b>	<b>17.57～21.43</b>	<b>16.67～20.59</b>	<b>16.20～20.15</b>	
	期末値	<b>19.44</b>	<b>18.75</b>	<b>18.12</b>	<b>18.38</b>	
豪ドル円	レンジ	<b>80～105</b>	<b>80～105</b>	<b>75～100</b>	<b>70～90</b>	
	期末値	<b>95</b>	<b>90</b>	<b>85</b>	<b>85</b>	
タイバーツ円	レンジ	<b>3.80～4.60</b>	<b>3.70～4.70</b>	<b>3.50～4.50</b>	<b>3.50～4.50</b>	
	期末値	<b>4.06</b>	<b>4.15</b>	<b>3.97</b>	<b>4.10</b>	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

## ◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
9/1(金)	4-6月期法人企業統計調査	8月ISM製造業景況指数 8月雇用統計	(中) 8月製造業PMI	9/18(月)	(敬老の日)		
9/4(月)		(労働感謝の日)		9/19(火)		20年債入札 8月住宅着工・許可件数	
9/5(火)	10年債入札 7月家計調査	7月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会	9/20(水)	8月貿易統計	FOMC (結果発表)	
9/6(水)		7月貿易収支 8月ISM非製造業景況指数	(中) 8月貿易統計	9/21(木)		8月中古住宅販売 9月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会
9/7(木)	30年債入札			9/22(金)	8月消費者物価指数 植田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)		(欧) 9月PMI (速報値)
9/8(金)	4-6月期GDP (二次速報値) 7月毎月勤労統計 (速報) 8月景気ウォッチャー調査			9/23(土)	(秋分の日)		
9/9(土)			(中) 8月CPI G20首脳会議 (ニューデリー、 ~10日)	9/25(月)			(独) 9月IFO企業景況感指数
9/10(日)			東方フォーラム (ロシア、~13 日)	9/26(火)	40年債入札	2年債入札 8月新築住宅販売 9月消費者信頼感指数	
9/11(月)		3年債入札		9/27(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (7/27~28開催分)	5年債入札	
9/12(火)	5年債入札	10年債入札	(独) 9月ZEW景況感指数	9/28(木)	2年債入札	4-6月期GDP (確定値) 7年債入札	
9/13(水)	8月企業物価指数	30年債入札 8月CPI		9/29(金)	8月鉱工業生産 8月住宅着工件数 8月労働力調査	8月個人所得・消費支出	(中) 9月製造業PMI
9/14(木)	20年債入札 7月機械受注	8月PPI 8月小売売上高	(欧) ECB定例理事会	9/30(土)			(中) 9月PMI
9/15(金)		9月NY連銀製造業景況感指数	(中) 8月生産・小売・投資				



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

## 中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【7/28~8/3】

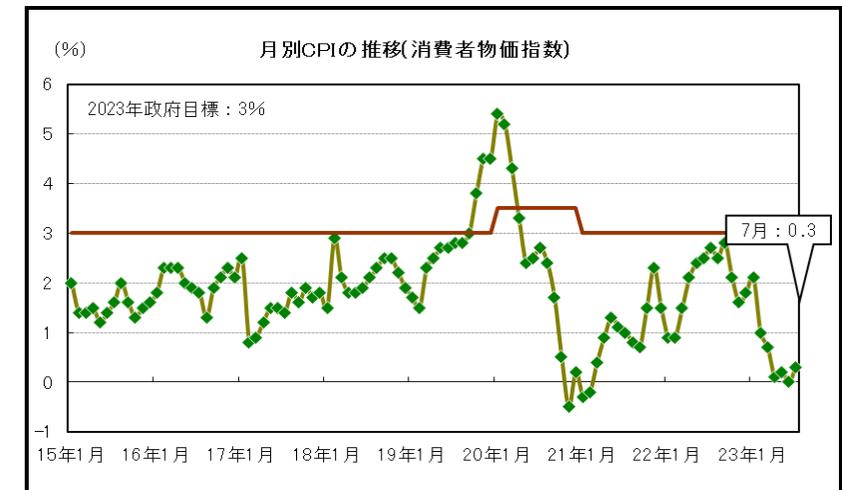
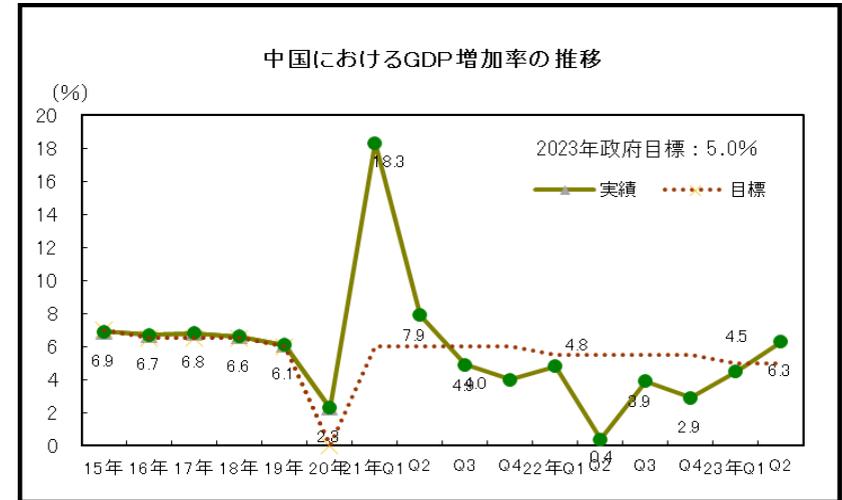
## ◎ 7月の製造業PMI、4カ月連続節目割れ

中国国家统计局と中国物流購買連合会は7月31日、2023年7月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）が49.3だったと発表した。先月より0.3ポイント上がったが、4カ月連続で好不況を判断する節目の50を下回った。受注不足が長引き、企業の生産活動が鈍った。調査対象の21業種のうち、PMIが50を上回ったのは10業種で、前月より2業種増えた。非製造業PMIは51.5だった。7カ月連続で節目を超えたが、前月より1.7ポイント下がった。

【8/3~10】

## ◎ 28項の税負担軽減措置、中小企業支援へ

中国国家税务总局は6日、28項の税負担軽減措置を実施する方針を発表した。中小企業（個人事業主含む）の税負担軽減を進めていく。中小企業の増値税優遇策などを拡大していく考え。中小企業が対象となる税負担軽減策を洗い出し、リストを作成する方針も示した。企業が全ての軽減策の適用を受けられるようにするほか、各地の軽減策の運用にばらつきが出ないようにする。納税手続きの簡便化を推進する方針も示し、行政手続きの際に必要な資料や証明書を明確化し、不必要に資料や証明書を求めないよう指示。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

## 中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

## 【8/11～17】

## ◎MLF金利2.5%に引き下げ、2カ月ぶり

中国人民銀行（中央銀行）は15日、市中銀行に資金を供給する中期貸出制度（MLF）の金利を従来の2.65%から2.5%に引き下げた。MLF金利の引き下げは6月以来。人民銀は1年物MLFによる銀行への貸出を通じて4,010億元（約8兆円）を市場に供給した。2,040億元の7日物リバースレポも実施した。金利は従来の1.9%から1.8%に引き下げた。MLFは貸出基礎金利（ローンプライムレート、LPR）算出の基礎となる金融政策ツールで、MLF金利の動向はLPRに反映される。

## 【8/18～24】

## ◎LPR、一年物のみ0.1%引き下げ

中国人民銀行（中央銀行）は21日、金融機関の貸出金利の目安となる貸出基礎金利（ローンプライムレート、LPR）の1年物を3.45%と定めた。これまでの3.55%から0.1%引き下げた。1年物の引き下げは6月以来で、今年2回目。住宅ローン金利の目安になる5年物以上は4.20%に据え置いた。住宅需要を刺激する為、5年物も引き下げるとの見方が多かったが、市場予測に反して引き下げを見送った。1年物と5年物は同時に引き下げる場合が多く、1年物のみを引き下げるのは21年12月以来のケースとなった。

## 主要経済指標

&lt;月次データ&gt;

項目	単位	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7
実質GDP成長率	%	3.9	-	-	2.9	-	-	4.5	-	-	6.3	-
消費者物価上昇率	%	2.8	2.1	1.6	1.8	2.1	1	0.7	0.1	0.2	0	(0)
都市部調査失業率	%	5.5	5.5	5.7	5.5	5.5	5.6	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3
輸出額	10億ドル	319.6	296.3	292.9	300.8	287.2	210.3	305.0	291.6	283.7	285.3	281.8
輸入額	10億ドル	236.9	212.5	225.9	228.9	193.5	197.5	226.6	204.7	217.3	214.6	201.2
経常収支	100万ドル	298,739	-	-	401,855	-	-	81,530	-	-	146,830	-
外貨準備高	10億ドル	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.02	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

## ◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年9月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

## ○「長安三万里」大人気！

週末、子供を連れて今人気の「長安三万里」という映画を見に行きました。

この映画は李白と高適という二人の詩人の人生を物語にし、それとともに唐時代が繁栄から衰退までの歴史も描いています。

映画の中、人物の服飾や行事、風俗など歴史、ありのままに再現、西安の全貌から唐の最盛期の繁栄が分かります。また時々、二人はストーリーに基づいて感情をこめて詩を作り、本当に心に響きます。特に李白は努力の結果出世し、でも多くの原因でまた左遷されて、彼の失意の姿を見ると中年の私は特に感慨が深いです。



この映画は今年の夏休みに歴史ジャンルの映画の中で最も人気となり、小学生は必ず見るほどの映画にもなりました。日本にいる皆さんももしチャンスがあれば、是非一度見てください。

中国の唐時代の歴史をすこし知ることができると思います。

## ○今なお鋭い「越王勾踐剣」

週末、ブログである記事を見ました。

湖北省博物館が所蔵する「越王勾踐剣」は2千年の時を経ても変わらない鋭利さと美しさを保っています。記事の写真を見ると、綺麗な模様がみられ、本当に綺麗だなと思います。

中国には「臥薪嘗胆」という成語がありますが、このなり立ちの主人公は越王勾踐です。勾踐は春秋時代後期の越の王で、呉王「夫差」との争いに失敗し、3年間、夫差の馬夫として仕えました。勾踐は夜、わらの上で眠り、この屈辱を忘れないために部屋に苦い肝を吊るし、毎日舐め、呉に対する復讐を誓いました。そして、自分もこっそり準備を進めて、20年後、勾踐は大軍を率いて、呉に攻め込み、夫差の軍を大破しました。

この剣は当時使った剣で、記事によると、この「越王勾踐剣」が出土した際、作業員は慎重に作業をしていたものの、剣に手を触れた際、手を切ってしまい血が止まらなかったそうです。また、16枚の紙を重ねて、その切れ味を確かめたところ、さほど力を入れることもなく、全て綺麗に切れてしまいました。春秋時代の高い技術力に本当に関心しました。今度湖北省に行くとき、是非実物を見たいです。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

## (2023年9月号)

### タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

#### ◆国内経済、回復基調を維持

タイ中央銀行の2023年6月の経済報告によれば、タイ経済は観光業を牽引役として回復基調を維持しているとの見方を示した。外国人観光客が前月比4.4%増加した民間消費指数は前年同月比6.5%と拡大を続けている。一方、民間投資指数は同1.6%と落ち込んだ。建設投資と機械・設備投資ともに減少した。鉱工業生産指数は同5.2%低下した。ハードディスク駆動装置（HDD）、ゴム手袋、家具等の生産が減ったものの、石油製品、自動車、二輪車、食品・飲料等の生産が加速した。

#### ◆2023年7月CPI、前年同月比0.38%上昇

タイ商務省が発表した7月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.38%上昇した。22カ月ぶりの低い伸びを記録した前月（0.23%上昇）から若干加速した。鶏卵や野菜、果物が値上がりし、燃料の値下がり幅が縮小したため。分野別では、食品・飲料が前年同月比1.49%上昇したが、非食品が同0.38%下落した。2023年1～7月CPI平均値は前年同期

比2.19%上昇となった。

#### ◆2023年6月輸出額、9カ月連続のマイナス成長

タイ商務省によると、2023年6月の輸出額は前年同月比6.4%減の248億2,600万米ドルだった。前年同月比で9カ月連続のマイナス成長。貿易相手国の消費が抑制されていることに加え、中国経済の回復が予想より遅れていること等が響いた。6月の輸入額は前年同月比10.3%減の247億6,840万米ドルで、貿易収支は5,770万米ドルの黒字となった。6月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=34.92パーツで、前月の34.25パーツからパーツ安となった。

### 主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7
実質GDP成長率	%	4.6	-	-	1.4	-	-	2.6	-	-	1.8	-
消費者物価上昇率	%	6.4	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4
失業率	%	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	24,953	21,827	22,388	21,778	20,250	22,376	27,654	21,723	24,341	24,826	-
輸入額	100万ドル	25,487	22,147	23,504	22,504	24,899	23,490	24,936	23,195	26,190	24,768	-
経常収支	100万ドル	74	704	-293	1,157	-1,978	1,034	4,413	-581	-2,766	1,449	-
外貨準備高	10億ドル	199.4	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7
主要政策金利	%	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00
対ドル為替レート	パーツ	37.0	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値

主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

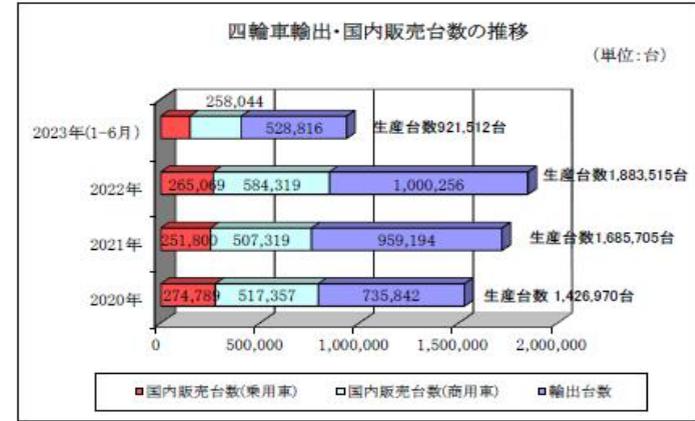
(2023年9月号)

## タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

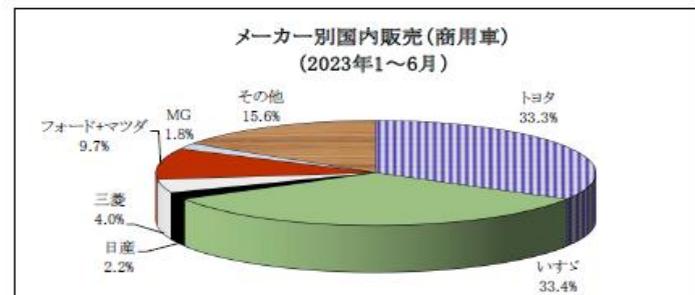
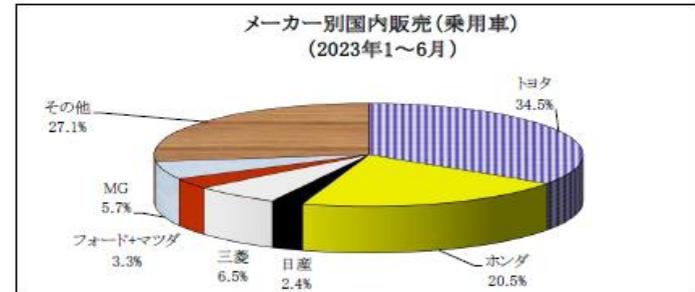
		2020年	2021年	2022年	2023年 (1-6月)	前年同期比 (%)	6月		
【台数】	(台)								
		四輪	生産台数	542,437	599,844	600,839	321,061	125.0	50,300
			商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	600,451	97.9	95,257
			合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	921,512	105.9	145,557
		国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	148,087	109.0	24,333
			商用車	517,357	507,319	584,319	258,044	88.6	40,107
合計	792,146		759,119	849,388	406,131	95.0	64,440		
輸出台数	735,842	959,194	1,000,256	528,816	117.6	88,826			
二輪	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	1,127,604	120.7	207,166		
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	993,981	109.6	179,365		
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	427,634	85.3	65,365		
【完成車輸出金額】 (百万バート)									
四輪		410,912	561,147	619,348	329,181	123.4	55,926		
二輪		85,802	75,985	73,729	35,862	105.5	5,602		



### 【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-6月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	6月
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	51,041	131.2	34.5	7,411
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	85,818	83.2	33.3	13,466
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	136,859	96.4	33.7	20,877
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	86,281	78.5	33.4	12,505
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	86,281	78.5	21.2	12,505
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	30,425	102.9	20.5	4,441
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	15,709	148.4	6.1	2,626
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	46,134	114.9	11.4	7,067
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	3,560	52.3	2.4	612
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	5,673	114.5	2.2	889
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	9,233	78.5	2.3	1,501
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	9,578	85.7	6.5	1,351
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	10,257	63.0	4.0	1,659
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	19,835	72.2	4.9	3,010
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	53,483	108.2	36.1	10,518
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	54,306	116.7	21.0	8,962
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	107,789	112.3	26.5	19,480
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	148,087	109.0	100.0	24,333
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	258,044	88.6	100.0	40,107
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	406,131	95.0	100.0	64,440



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。